


香川の
土地改良



みどり
水土里ネット香川

発行所
香川県土地改良事業団体連合会
高松市番町二丁目 4 番 27-301 号
TEL (087) 822-0303
FAX (087) 851-1787
<http://www.midorinet-kagawa.or.jp/>



世界かんがい施設遺産に認定登録された満濃池（まんのう町）

目 次

1. 農業農村整備の集い開催	2
2. 平成 29 年度農業農村整備予算の確保・拡大について県選出国會議員に要望	3
3. 農地中間管理事業を活用した担い手への農地の集積・集約化に係る 連携協定の締結	4
4. 満濃池が世界かんがい施設遺産に認定・登録	4
5. 第 12 回水土里の路ウォーキング開催	5
6. 国際協力機構（JICA）課題別研修実施	6
7. 土地改良区だより 高松市東植田土地改良区	7
8. 平成 28 年熊本地震に伴う災害復旧支援業務参加	8
9. 会と催し	8

農業農村整備の集い開催



11 月 28 日、「農業農村整備の集い」が東京都千代田区のシェーンバッハ・サボーにおいて、“農を守り、地方を創る予算の確保に向けて”をテーマに開催された。

集いには、全国から農業農村整備事業関係者約 1,100 名が参集し、本県からは、本会の三笠副会長をはじめ、各地区の土地改良協議会長ら 12 名が参加した。

集いの開会に当たり、全国土地改良事業団体連合会の二階会長は、「今年も多くは災害に見舞われたが、心よりお見舞い申し上げます。全力を尽くして復旧に努力したい。平成 21 年度の予算水準に戻すべく、来年度の農業農村整備予算について 1,000 億円の増額要求したところである。予算の獲得に向け全力で取り組むので、関係者皆様方の協力をお願いしたい。」と挨拶された。



挨拶する山本有二農林水産大臣



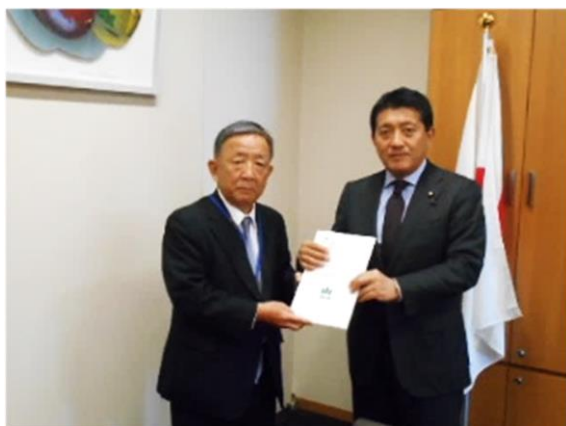
進藤金日子参議院議員による祝辞

次に、来賓として出席された山本有二農林水産大臣、西川公也衆議院議員（自民党農林水産戦略調査会長）、宮腰光寛衆議院議員（自民党食料産業調査会長）、今村雅弘復興大臣、進藤金日子参議院議員（都道府県土地改良事業団体連合会会長会議顧問）より祝辞が述べられた後、秋田県由利本荘市土地改良区など三土地改良区から事例発表があった。

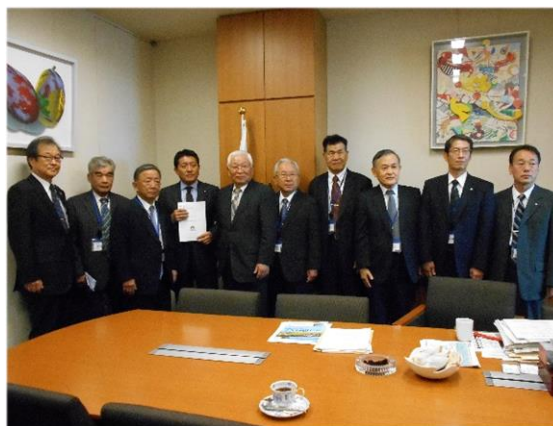
終わりに「平成 29 年度当初予算の確保」など 5 項目の要請書が全会一致で採択され、ガンパロウ三唱で盛会裏に集いは終了した。

平成 29 年度農業農村整備予算の確保・拡大について 県選出国會議員に要望

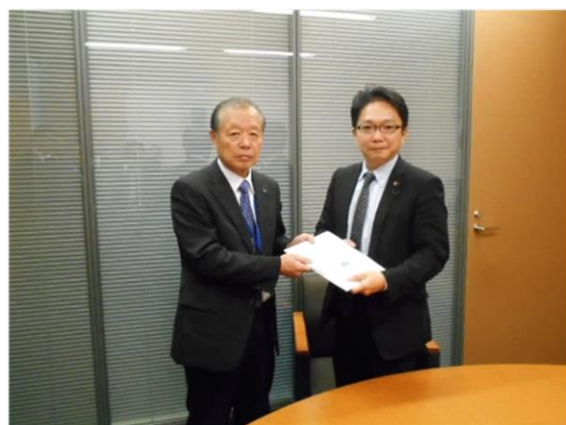
11 月 29 日、県選出国會議員に平成 29 年度農業農村整備事業関係予算の概算決定に向け、本県が直面する課題に対応するため、農業農村整備予算の確保・拡大、特に農村地域防災減災事業予算の拡大・重点配分、担い手への農地集積を後押しする「日本型直接支払制度」の推進、並びに「多面的機能支払制度」に取り組むため必要な当初予算の確保などについて要望した。



平井衆議院議員に要望書を提出



平井衆議院議員と要望活動参加者



大野衆議院議員に要望書を提出



三宅参議院議員に要望書を提出



玉木衆議院議員に要望書を提出



小川衆議院議員に要望書を提出

農地中間管理事業を活用した担い手への農地の集積・集約化に係る連携協定の締結

11 月 10 日、香川県庁本館 12 階大会議室において、浜田恵造香川県知事と坂井康宏中国四国農政局長立会いのもと、香川県農地機構など関係 11 団体が農地中間管理事業による担い手への農地の集積・集約化に係る連携に関する協定を締結した。このような幅広い団体による協定締結は全国でも例を見ず、担い手団体や農業協同組合、土地改良区、金融機関が情報共有を密にし、地域が一体となって貸し借りのニーズを開拓することによって、農地集積・集約化を促進し、香川県農業の持続的発展に寄与することを目標とする。

組織名	会長等
(公財) 香川県農地機構	松尾 恭成
(一社) 香川県農業会議	三笠 輝彦
香川県土地改良事業団体連合会	大山 茂樹
香川県多面的機能発揮促進協議会	大山 茂樹
香川県農業協同組合	遠城 昌宏
香川県農業経営者協議会	六車 孝雄
かがわ農業経営者組織ネットワーク	古本 忠
香川県農業士連絡協議会	三好 正博
IFK (香川県農業青年グループ)	高橋 光男
香川県集落営農法人等協議会	満濃 敏彦
(株) 日本政策金融公庫高松支店	笠原 真二

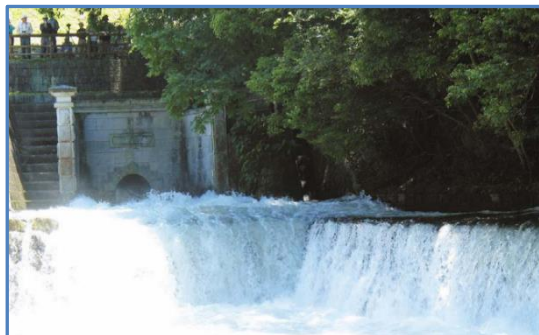


満濃池が世界かんがい施設遺産に認定・登録

世界かんがい施設遺産とは、かんがいの歴史・発展を明らかにし、理解醸成を図るとともに、かんがい施設の適切な保全に資することを目的に、建設から 100 年以上経過し、かんがい農業の発展に貢献したもの、卓越した技術により建設されたもの、歴史的・技術的・社会的価値のある施設を国際かんがい排水委員会 (ICID) が認定・登録する制度である。平成 26 年度に始まり、これまで日本では 13 施設が登録を受けている。

11 月 8 日、農林水産省はタイ王国チェンマイで開催された第 67 回国際執行理事会において、満濃池など全 14 施設が世界かんがい施設遺産に認定・登録されたと発表した。

満濃池は降雨の少ない香川県に作られた日本最大のかんがい用のため池であり、大宝年間 (701~704



毎年 6 月 15 日に行われるゆる抜き式

年) に讃岐の国守道守朝臣が創築し、唐で土木技術を学んだ空海が改修を施したとされる歴史的価値の高いため池である。貯水量 1,540 万立米のアースダムで、毎年 6 月に行われる「ゆる抜き」は、本格的な田植えシーズンの到来を告げる初夏の風物詩となっており、多くの見物客が詰めかける。満濃池は「さぬきの水がめ」として讃岐平野を潤すだけでなく、近隣に「国営讃岐まんのう公園」や「香川県満濃池森林公園」など豊かな自然が広がり、人々の憩いの場となっている。

第12回水土里の路ウォーキング開催

～「健康と金運をさがしに」名勝史跡をめぐる～



11月12日、観音寺市高室土地改良区及び観音寺市観音寺町土地改良区が主催し、国の機関や県、市、本会が共催・後援する水土里の路ウォーキングが観音寺市において開催された。このイベントは、ウォーキングを通じて、健康増進に加え、地域の歴史・文化である銭形砂絵「寛永通宝」など名勝史跡を散策するとともに、農業・農村が持つさまざまな役割や土地改良施設の重要



挨拶する森川理事長



開会式

性について再認識を目的として、毎年開催している。

12回目を迎えた今年は、有明グランドを発着点とする6km、10kmの2コースを設け、県内各地から120名余が参加した。



有明畑地帯

琴弾公園山頂から銭形砂絵「寛永通宝」を望み、レタス、セロリ、トマト、金時人参などの栽培でも知られる有明畑地帯で最初のチェックポイントに立ち寄った。続けて10kmコースでは、中池・下池で、地域の歴史や農業水利施設の大切さ、さらに地域環境の改善に向けた取り組みなどの説明を受けた。最後に二級河川財田川右岸に位置する高屋・八幡排水機場では集水区域の開発、度重なる湛水被害など事業実施に至る経緯の説明を受けた。絶好のウォーキング日和となり、自然を満喫した参加者は、ゴール地点で地元産のみかんやトマトを受け取り、土地改良施設の役割や農業の大切さ、地域の魅力を再認識した一日となった。



中池・下池



高屋・八幡排水機場

国際協力機構（JICA）課題別研修 「アフリカ地域総合災害対策」コース及び 「アフリカ地域村落飲料水管理」コースの研修員が来県

「アフリカ地域総合災害対策」コース

日程	講義	場所
10月18日	ため池の役割・多面的機能	アイパル香川
10月19日	土地改良区現場視察	香川県三郎池土地改良区

「アフリカ地域村落飲料水管理」コース

日程	講義	場所
11月15日	土地改良区の管理	アイパル香川
11月17日	土地改良区現場視察	四箇池土地改良区



三郎池を視察する研修員

10月18日、19日、独立行政法人 国際協力機構（JICA）筑波国際センター主催の 2016 年度「アフリカ地域総合災害対策」コースの研修員 5ヶ国 11名が、災害に対する知識を学ぶため、また、11月15日、17日、2016年度「アフリカ地域村落飲料水管理（B）」コースの研修員 12ヶ国 15名が、水管理について学ぶため来県した。

これらの研修は、JICA関西が10月の研修、JICA四国が11月の研修を、アフリカの行政官を対象に実施したものである。

前半の「アフリカ地域総合災害対策」コース研修では、日本における地震や洪水、干ばつなど自然災害の事例や知見を通して、災害に対する能力を高めることを目的に、ため池の役割や多面的機能の香川県における事例を、水土里ネット香川と香川県三郎池土地改良区により通訳を介して学んだ。後半の「アフリカ地域村落飲料水管理」コースでは、我々の生活に欠かすことのできない「水」を飲料水として管理するために、地方自治体や地域住民がどのような取り組みをしているか、渇水対策や効率的な水管理を行っている香川県に来県し、実際の水質管理の現場を訪問して学んだ。水土里ネット香川と四箇池土地改良区により通訳を介して研修を行い、土地改良区の役割や土地改良施設の維持管理方法について説明した。



土地改良区の管理について研修



四箇池土地改良区にて研修

～土地改良区だより～

高松市東植田土地改良区は、東植田町、菅沢町を管内として昭和 42 年に設立された。高松市南東部に位置し、南北に高様川、東西に朝倉川が流れる自然豊かな農村地域である。管内には鍵面池（東植田町）、半行寺池（菅沢町）など大小 200 以上のため池があり、降水量が少ない中での農業用水確保に欠かせないものである。

香川県全域でも甚大な被害のあった平成 16 年の台風をはじめ、平成 19 年、23 年と大型台風上陸の度に管内各所に被害が出たが、その都度、役員、総代、地域の協力で乗り越えてきた。ほ場整備を実施した地域も多いが、施工後 20 年以上が経過し、近年は補修や改修が必要となっている。

管内農業は、稲作を中心に、麦、ブロッコリー、菜花などの野菜や、昭和 13 年度より耕作許可となった葉タバコも面積は減少したが生産を続けている。また、昭和 29 年に製茶工場（現 JA 香川県高松南部荒茶加工場）が整備され、毎年生産される茶も好評を得ている。

平成 19 年度から始まった農地・水・環境保全向上活動（多面的機能支払交付金）参加の地元活動組織から事務委託を受け、協力し地域資源等の保全管理に取り組んでいる。また、農用地を活用した景観形成活動として、ひまわり、コスモス、彼岸花などを植栽し、町内外の方に喜ばれている。その活動等が評価され、「平成 27 年度高松市美しいまちづくり賞」を受賞することができた。

農業従事者の高齢化、後継者不足などが懸念されるが、土地改良区役員が一丸となり農業生産基盤の整備に取り組み、生産性の向上等を図り、地域の発展に努めている。

高松市東植田土地改良区（高松市）



管内全景



公城の里活動組織と協力し彼岸花を植栽



溝淵美園 理事長

土地改良区の概要

所在地	高松市東植田町 2014 番地 2
設立年月日等	昭和 42 年 12 月 26 日 香川県第 259 号
関係市町	高松市東植田町、菅沢町
管内農地面積	242ha（田 189ha、畑 53ha）
組合員数	371 人（総代 30 人）
役員数	理事 7 人、監事 3 人

平成 28 年熊本地震に伴う災害復旧支援業務参加

平成 28 年 4 月 14 日から 16 日に発生した熊本地震の災害復旧支援のため、本会事業課前田課長補佐と田川技師補の 2 名を 10 月 17 日から 11 月 12 日まで熊本県へ派遣し、嘉島町・南阿蘇村各市町村にて、災害査定設計書の確認及び実施設計書作成を行った。



段差が生じ破損した管路

熊本地震災害の被害件数は、20,800 箇所・被害額 80,180 百万円と平成 24 年豪雨災害を大きく上回っている。第 15 次査定まで終了している地域もあるが、被害が甚大で進捗率が二割程度となっている地域もあった。その地域に関しては、今回、従来の査定設計書の作成方法ではなく、簡素化案によりこれからの査定の効率化を検討していた。

現地へ赴き調査するなかで、亀裂が入り、段差が生じている田畑、途中で破損し通水が困難なパイプラインや水路など様々な災害があり、農作物を作りたくても作れない農家の方々の悲痛な思いなど、伝わってくるものも多かった。また、応援派遣に各都道府県から多くの水土里ネットの職員が参加しており、気持ちを一つにし、熊本県の日も早い復旧復興を願って業務にあたり、水土里ネットの繋がりを感ずることができた災害復旧支援でもあった。

会 と 催 し

開催月日	会 の 名 称	開催場所
11 月 12 日	第 12 回水土里の路ウォーキング	観音寺市
11 月 14 日	香川県農業農村整備事業環境情報協議会	高松市
11 月 15 日	大川地区土地改良研修会	さぬき市
11 月 15 日 17 日	国際協力機構（JICA）課題別研修「アフリカ地域村落飲料水管理」	高松市
11 月 16 日	第 2 回全国水土里情報利活用促進会議幹事会	東京都
11 月 22 日	中国四国管内農林水産大臣表彰選考委員会	広島県
11 月 28 日	農業農村整備の集い	東京都
11 月 29 日	農業農村整備事業予算要望	東京都
11 月 29 日	高松東南部地区土地改良区統合整備推進検討会第 4 回会議	高松市
12 月 1 日	第 6 回香川用水記念会館建設委員会幹事会	高松市
12 月 2 日	小豆郡土地改良事業推進協議会第 2 回研修会	小豆島町
12 月 9 日	平池土地改良区理事研修会	高松市
12 月 10 日	香川県土地改良 OB 会並びに叙勲受章をお祝いする会	高松市